



農林水産省 令和4年度フードバンク活動強化緊急対策委託事業

フードバンク活動事例集



作成 株式会社マイファーム

目次

本事業について

P01

専門家派遣事業

- 01 インタビュー
視察を経て在庫管理方法や設備の見直しへ
NPO法人 フードバンクさが P05
- 02 インタビュー
寄付金獲得に向け企業へ呼びかけ
NPO法人 フードバンク奈良 P07
- 03 インタビュー
知識と強みを整理実践で使える力に
NPO法人 フードバンクネット西埼玉 P09
- 04 継続した活動のため 助成金申請のアドバイス
NPO法人 フードバンク京都 P11
- 05 寄付への動線づくりで継続した支援へ
認定NPO法人 フードバンク渋谷 P12
- 06 寄付型自動販売機の設置で継続した寄付を確保
NPO法人 フードバンクしまね あったか元気便 P13
- 07 地域連携の強化に向け他地域の事例に学ぶ
フードバンクそお P14
- 08 行政や企業との連携で寄贈量の増加へ
NPO法人 Shining P15
- 09 多岐にわたる活動を整理 情報を伝わりやすく
NPO法人 らしく P16
- 10 申請書フォーマットを統一し必要な情報を整理
NPO法人 フードバンクはりま P17
- 11 団体の規模と目的に合わせ 運営の方向性を確認
フードパントリーえんむすび P18
- 12 組織運営への不安を払拭し 新たな助成金の獲得へ
NPO法人 フードバンク浜っ子南 P19
- 13 持続可能な組織づくりに向けスタッフへ意識を共有
フードバンクかしわざき P20
- 14 団体基盤を強化し助成金申請に挑戦
NPO法人 フードバンク飯塚 P21
- 15 地域で連携し貧困支援 体制構築を学ぶ
フードバンクあしかが P22
- 16 フードバンク事業開始に向け運営方法をアドバイス
NPO法人 Kodomo Saijo P23
- 17 最適な法人格をアドバイス NPO法人設立総会開催へ
フードバンクくるめ P24
- 18 寄贈管理システム導入でデータ管理がスムーズに
フードバンク泉佐野 P25
- 19 必要な情報を適切に管理情報共有をスムーズに
認定NPO法人 セカンドハーベスト名古屋 P26
- 20 複数人が使用するデータの機能改善で負担軽減
NPO法人 埼玉フードパントリーネットワーク P27
- 21 全体の共通課題を整理し研修会を実施
新潟県フードバンク連絡協議会 P28

ネットワーク強化事業

- 01 地域：北海道
広い北海道ならではの課題
ネットワーク構築で解決を目指す
NPO法人 フードバンクイコロさっぽろ P31
- 02 地域：近畿
活動歴の短い団体に限定し交流会を開催
フードバンク滋賀 P35
- 03 地域：中国四国
地域全体で書式を統一 支援企業の負担減へ
NPO法人 フードバンクとやま P37
- 04 地域：東海
東海地域全体で協力し合える体制を目指して
認定NPO法人 フードバンクふじのくに P38
- 05 地域：東北
衛生管理を徹底し団体の信頼性を底上げ
一般社団法人 東北フードバンク連携センター P39
- 06 地域：全国
全国の取り組みを共有今後の活動へ意見交換
全国フードバンクシンポジウム P40

その他

- 01 優良事例
ファンドレイジングや広報で活動の継続と拡大へ
認定NPO法人 フードバンク山梨 P45
- 02 優良事例
拠点倉庫とパントリーを繋ぎネットワークを構築
NPO法人 埼玉フードパントリーネットワーク P49
- 03 優良事例
団体が価値観を持つ大切さ 経験を生かし新たな挑戦も
認定NPO法人 セカンドハーベスト・ジャパン P53
- 04 インタビュー
北長瀬エリアマネジメント
一般社団法人 北長瀬エリアマネジメント P55

本事業について

農林水産省 令和4年度フードバンク活動強化緊急対策委託事業

01 専門家派遣

申請のあった団体に事務局がヒアリングを実施。直面している課題に合わせ、さまざまな専門知識をもつ専門家をマッチングします。

実施内容

個別団体への派遣

運営基盤の強化や食料寄贈元の開拓など、フードバンク団体が抱える課題に強い専門家を派遣。必要なノウハウ獲得を促進し、活動基盤の強化や運営能力の向上を目指します。

事務受託

専門家からの運営助言を実行するために必要な事務業務を担う人材を派遣することで、専門家から提供された知見や助言を確実に運営改善につなげることを目的としています。

情報交換会への派遣

ネットワーク強化事業で実施される情報交換会へ、専門家派遣を行います。先進事例やノウハウなどを参加者に共有し、知識の底上げや視野の拡大に導きます。

実施実績

派遣団体数 **63** 団体

マッチング数※ **105**

派遣回数 **479** 回

派遣先団体拠点



※団体と専門家のマッチング数。一つの団体に複数の専門家が派遣されることもあるため、派遣団体数と異なる。

どんな専門家が派遣された？

事務局で定められた基準を満たす51名が専門家として登録されました。一部をご紹介します。

新規企業開拓、新設フードバンク支援



米山廣明氏
一般社団法人全国フードバンク推進協議会 代表理事

2008年のフードバンク山梨設立時よりフードバンク活動に携わる。2015年より現職、新設フードバンク団体の立ち上げ支援や、政策提言活動などを行っている。

資金計画、事業戦略づくり



御手洗 薫氏
株式会社岡澤商店

外資系IT企業で二度育児休職し、待機児童問題や病児保育問題などに直面した経験から、2017年認定NPO法人フローレンスに入社。現在は法人向け寄付・遺贈寄付を担当。

農林水産省令和4年度フードバンク活動強化緊急対策委託事業は、フードバンク活動に取り組む団体の、活動基盤を底上げすることを目指すものです。

昨今の新型コロナウイルス感染症の影響の長期化などにより、子ども食堂や生活困窮者などへ食品を届けるフードバンクの役割が増しています。その一方で、食品ロスの問

題は世界的に大きくなっています。本事業は、これらの課題に取り組むフードバンク団体の、活動基盤の強化を目的として実施されました。

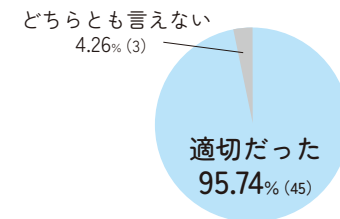
本事業により日本全国のフードバンク活動が効果的に展開されることで、食品ロスの削減や、困窮世帯などへの適切な支援がより充実することを目指しています。

実施後アンケート

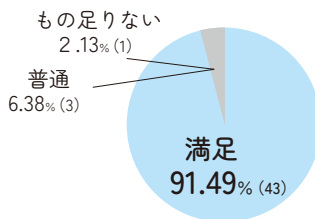
専門家派遣終了後に団体へアンケートを実施し、57団体中47団体が回答。以下の通り満足度の高い結果となりました。

※情報交換会への派遣を除く ※（）は回答数

マッチングの精度



専門家の満足度[課題解決のスキル]



専門家派遣を通じて得られた成果（複数回答可）

課題の可視化	37	78.72%
事業目標やアクションの明確化	28	59.57%
事業の見直しや整理	24	51.06%
スタッフの知識・技能の向上（人材育成）	15	31.91%
事業運営・管理体制の強化（マニュアル作成・オペレーション標準化等）	14	29.79%
広報・営業力の強化	14	29.79%
中長期事業計画の作成	11	23.40%
財務・資金繰りの改善	11	23.40%
運営スタッフやボランティアの確保・適切な配置	11	23.40%
地域の行政や他団体との連携促進	8	17.02%
新規企業の開拓・食品寄贈元の増加	7	14.89%
食品寄贈先(施設・困窮世帯等)の発掘・アウトリーチ	7	14.89%
経理・労務の仕組み化・改善	7	14.89%
衛生管理の改善	7	14.89%
法人格に関する検討点の解消(NPO 法人の取得等)	5	10.64%
成果を感じられなかった	0	0.00%

アンケート内コメントの一部

- ・直接、専門家からの意見が聴けて、法人化の方針が決められた。
- ・マッチングして頂きました専門家の方は親身に、当法人の意向を聞き取った上で必要な事柄を提案して下さいます。大変満足しています。
- ・アドバイスをいただき財政面の課題が明確になりました。また課題解決に向けて組織運営の大切さが再確認でき、基盤強化の取り組みには伴走していただいているような励ましをいただきました。当団体にとって必要な時期にご支援いただき心から感謝しています。
- ・実際に、運営に関わっている方からの生の声を聴けたので、大変勉強になりました。頑張っていこうという力もいただきました。
- ・食品ロス削減と生活困窮者支援の充実を図るためのアドバイスをいただき感謝いたします。

その他実施事項

視察 全国の先なフードバンク団体の取り組みを学ぶため、視察を行いました。

- | | | |
|--------------------------|---------------|----------------|
| ① 認定NPO 法人フードバンク山梨 | 日程：2023年1月27日 | 参加：16 団体から26 名 |
| ② NPO 法人埼玉フードパントリーネットワーク | 日程：2023年1月28日 | 参加：6 団体から9 名 |
| ③ 認定NPO 法人セカンドハーベスト・ジャパン | 日程：2023年2月21日 | 参加：13 団体から21 名 |

オンライン講座 団体に共通する課題について専門家による研修動画を作成し、オンラインで公開しました。

フードバンクの品質・衛生管理について
講師：公益財団法人日本フードバンク連盟 近藤智氏（食品企業の技術顧問）
ファンドレイジング（資金調達）について
講師：NPO法人日本ファンドレイジング協会 法人連携推進パートナー 久保匠氏
フードバンクの福祉的役割について
講師：一般社団法人全国フードバンク推進協議会 代表理事 米山廣明氏



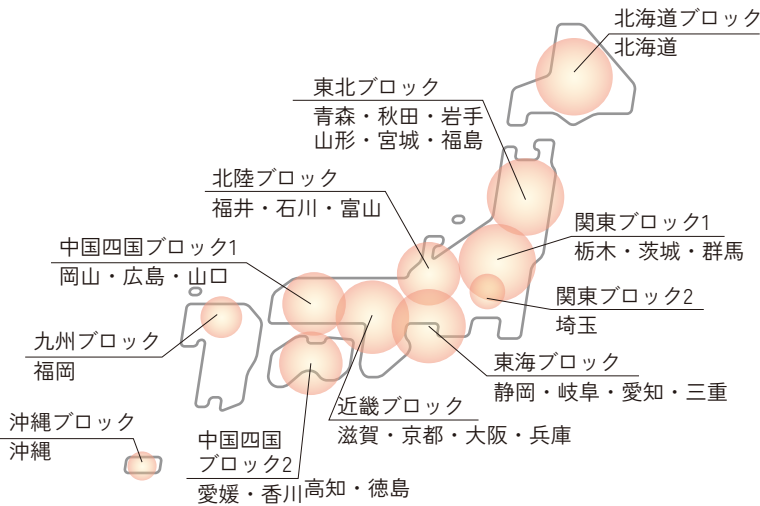
▲動画視聴はこちら

02 ネットワーク強化

人の命や幸せを未来につなぐ大切な活動に従事するフードバンク団体の活動基盤の強化を目的とし、支援団体に多様な分野の専門家を派遣することで、団体の活動がより効果的に展開され、より多くの人たちに、より適切な支援が届けられることを目指します。

実施内容

全国9ブロックを右の通り11ブロックに細分化し、各地域ブロックを対象としたフードバンクネットワーク強化事業を実施しました。



実施実績

各地域での情報交換会

合計 **31** 回開催

地域ブロックごとにネットワークの事務局機能の管理者として中核団体を配置し、地域ブロック主体のネットワーク強化事業を展開しました。
各ブロックにて右表の通り情報交換会を実施し、また、フードバンク団体への支援活動を展開する中間支援団体（全国フードバンク推進協議会など）の関係者に情報交換会に登壇してもらうことで、全国的なつながりがうまれました。

ブロック	情報交換会などの開催実績
北海道	2回
東北	2回
関東1	2回
関東2	2回
北陸	1回
近畿	2回
東海	5回
中国四国1	4回
中国四国2	4回
九州	1回
沖縄	3回

全国フードバンクシンポジウム

全国的なフードバンク団体同士のネットワークの構築として、東京にて全国シンポジウムを実施しました。
YouTubeでのライブ配信も行い、現地・オンライン合わせて合計約150名が参加しました。



本事業のウェブサイトでも事例を公開しています
<https://myfarm.co.jp/foodbank/>



専門家派遣事業

寄付金獲得に向け 企業へ呼びかけ

NPO法人 フードバンク奈良

運営していたこども食堂へ必要な食料を集めたいという思いから設立。こども食堂や児童養護施設などへ支援を行っています。また、奈良市の委託を受け、奈良市内の困窮世帯への支援として奈良市フードバンクセンターの運営も行っています。

支援実績 派遣回数：5回 合計派遣時間：5回13時間

お話を聞いた皆さん（本文内敬称略）



平川 理恵氏
NPO法人
フードバンク奈良



米山 けい子氏
認定NPO法人
フードバンク山梨

助成金だけでなく 自由度の高い資金の確保を

—— 今回の専門家派遣事業では、資金の確保のために寄付集めに挑戦されたということですね。団体ではこれまで寄付金を増やすための取り組みはありましたか。

平川 団体の会報誌などを発行するタイミングで、寄付をお願いする振込用紙を一緒に送ってはいたのですが、それも年間2回程度でした。忙しくて発行が遅れることもあり、きちんと取り組めてはいませんでしたし、発送してもそれほど集まりませんでした。

米山 私が所属するフードバンク山梨では、始めの5年ほどは補助金や助成金に頼って活動していました。しかし、ある年に必要な資金を獲得できなかったタイミングがあり、そこから寄付集めに真剣に取り組んでいます。

フードバンク奈良さんも現在委託事業などで資金は確保できているとのことですが、長期的な団体運営を考えると、自由度の高い資金として寄付を確保することが大切だと思います。



県内の優良企業 100社をリストアップ

—— 寄付集めに向けた米山さんの提案はどのようなものでしたか。

平川 まず、米山さんからは寄付の目標金額について、300万円と設定がありました。そして、奈良県内の企業100社へ寄付のお願いをするという提案がありました。

団体内部からは「300万円なんて達成できるわけがない」「これまでお付き合いのないところに寄付のお願いをしていいのか」など、とまどいの声もありました。

米山 寄付を募ることは運営費を集めることではあるのですが、それよりもまず、団体の活動を広め、理解を深めるための取り組みであるということもお伝えしました。団体で気持ちを一つにして取り組むことが重要ですね。

—— 寄付のお願いをする100社はどのようにリストアップしましたか。

米山 良い経営状況でないと寄付はできないので、新聞に広告を出している企業や、周年事業を行っている企業などが良いのではとアドバイスしました。私たちはフードバンク団体なので食品関係の企業にお願いしがちですが、それ以外の企業にも幅広くお願いしてみることが大切です。

平川 奈良県内の社会貢献に興味がありそうな企業をリストアップし、97社に送ることができました。同封するお手紙も米山さんから例文をいただき、参考にしながら作成しました。また、手書きのお手紙にすると気持ちが伝わるというアドバイスもあり、手書きしたものをコピーして同封しました。



金融機関・建設会社などから 寄付の問い合わせ

—— 企業から反応はありましたか。

平川 ある金融機関から「以前よりフードバンクの存在は知っていたが、今回お手紙を見て話を聞いてみたいと思った」と連絡があり、先日お伺いしました。寄付にもつながりそうです。

自動車販売会社からは、社内を実施するフードドライブで集まった食料を寄付したいと問い合わせがありました。また、食品会社からは自社で販売している商品の寄付があったり、建設会社は団体会員になってくださったりと、さまざまなご連絡をいただいています。

—— すごいですね。これほど問い合わせがあると予想していましたか。

平川 これまでは食品に関係のない企業にアプローチをしたことがなかったですし、会ったこともない企業にお手紙を送るのは失礼にあたるのではないかともしましたが、こうして早速反応があったことに驚いています。

企業の担当者にお話を聞いてみると、私たちの団体はこれまでマスコミに取り上げられたことが何度かあったので、存在は知っていたようです。そこに今回お手紙を送ったことで、どのように団体を支援できるか知ってもらえて、このような結果につながったのだと思います。

米山 提案したことをすぐに行動にうつしたことが素晴らしいと思います。皆さんそうですが、やればできるんです。ただやっていなかっただけで。今回は、とにかく100社へ発送しましょうとプレッシャーをかけたということもありますが（笑）。



◀ 専門家のアドバイスを
もとに作成したチラシ

「寄付をください」と団体からお願いしないかぎり、誰も寄付をしてくれません。また、フードバンク団体は食料やボランティアでの協力だけで十分だと思われがちという面もあります。お金の寄付が必要だと伝えないと気が付いてもらえないのです。

—— ニュースリリースやチラシについてもアドバイスがあったそうですね。

米山 はい。誰が読むのかを意識して作成することを伝えました。NPO団体はどうしても自分たちの伝えたい思いがあるので、自分よがりな内容になってしまいがちですが、誰がターゲットかを明確にし、相手の目線に合わせて発信することが大切です。

平川 私たちの活動を広く知ってもらうために、プレスリリースの重要性も改めて認識することができました。新しい事業に取り組むタイミングだけでなく、活動の終了時に報告として、また、第2回・3回を実施する際にも、その都度プレスリリースを出すことが重要だと実感しました。

小さな成功体験を 積み上げる

—— この先取り組みたいことはありますか。

平川 安定した運営のために、スタッフ一丸となって寄付を募る取り組みを続けていきたいです。あわせて、規模の大きな助成金にも挑戦していこうと考えています。

米山 今回のように一歩ずつ成功体験を積み上げていくことが大切ですね。私自身もフードバンク業界の底上げとなるよう、ほかの団体の力にもなりたいという思いがあるので、今回関係性が作れてうれしく思っています。

NPO 法人 フードバンク奈良 団体概要

所在地	奈良県奈良市	スタッフ数	有給 5 名 ボランティア 30 名	2021 年度実績	
代表者名	代表理事 平川 理恵	活動日数	週 3 日	取り扱い量	194 トン
設立年	2017 年			食料提供者	約 150 社・団体
https://foodbanknara.jimdofree.com				食料提供先	約 100 団体／約 3,500 世帯

知識と強みを整理 実践で使える力に

NPO法人 フードバンクネット西埼玉

生活困窮者を支援するNPO法人サマリアから、食料支援に特化した団体として設立。埼玉県西部地域で活動する小規模なフードバンクやこども食堂などと協力し、個別支援だけでなく福祉施設などへの中間支援を行っています。

支援実績 派遣回数：7回 合計派遣時間：12時間

お話を聞いた皆さん（本文内敬称略）



丸茂 真依子 氏
NPO法人
フードバンクネット西埼玉



御手洗 薫 氏
株式会社岡澤商店

長期的に事業を続けるため 助成金以外の資金源を

—— まず、どんな課題を抱えていたのか教えていただけますか。

丸茂 これまで5年ほど活動していますが、主な資金源は助成金となっています。助成金は基本的に1年ごとの申請となるので、その年の資金しか確保できません。すると、活動を長く続けていけるのかとスタッフの気持ちも不安定になりがちですし、倉庫を借りたり人材を雇用したりといった長期的な投資もできず、その場しのぎで活動を続けてきた状態でした。また、長期的な事業計画も立てられていませんでした。

今後より活動を発展させるために、これではいけないという思いはずっと抱えていましたが、どこから手をつけて良いか分からず……。ただ、不安の根底に資金面の課題があることは分かっていたので、アドバイスをもらいながらファンドレイズに取り組みたいという気持ちはありました。助成金以外の資金源を確保することで、長期的な活動を見据えた、計画的な事業展開を進めたいと思いました。



—— これまでファンドレイズに取り組んだことはありましたか。

丸茂 マンスリーサポーターを募ったり、企業へ協賛をお願いしたり、クラウドファンディングに取り組んだり、いろいろと挑戦はしていました。でも、戦略はなく行き当たりばったりという感じで。どういいう情報を誰に向かって出すと効果的か、ということまでは考えていませんでした。

すでにある知識を 実践にどう落とし込むか

—— 専門家の御手洗さんは、日本ファンドレイジング協会の研修講師もされているということですが、団体の印象はいかがでしたか。

御手洗 丸茂さんは日本ファンドレイジング協会の研修にも参加したことがあるということを知っていたので、もともとファンドレイズに積極的に取り組む意欲がある方という印象でした。そして実際にお話を聞いていくと、すでに知識はあるもののどう活用していいか分からず、また、日々の業務がある中でなかなかファンドレイズに力を注ぐことができず、葛藤を抱えていることも分かりました。

—— 課題解決のために、どのようなアドバイスをしましたか。

御手洗 ヒアリングを進める中で、特に法人寄付に興味があるということを知りました。丸茂さんはファンドレイズに関する本を読んだり研修に参加したりと、知識は十分です。そこで、何かを教えるというよりは、すでに持っている知識を実際にどう生かせるか、点と点を結んでいくような作業と一緒に進めました。具体的には、企業へ訪問する際に使用す



る営業資料のブラッシュアップや、企業対応のロールプレイなどを行いました。

団体の強みを洗い出し 地域での役割を明確に

—— 専門家からの提案を受けて取り組んだことを教えて下さい。

丸茂 まず、活動を振り返り、団体のもつ強みを整理しました。御手洗さんと一緒に取り組むことで、客観的なセールスポイントに気付くことができました。例えば、私たちの団体は個別の世帯への直接支援と、福祉施設などへの中間支援の両方に取り組んでいます。直接支援のみを行う団体に比べると、支援数が少なく見えてしまうことがマイナスポイントだと思っていました。でも、御手洗さんからは「直接支援と中間支援の両方に取り組んでいるからこそ見えることがある。逆に強みでは」と言っていたので、そういう視点があったのかと驚きました。

振り返りを進めるにつれ、団体が地域の中でどのような存在であるかを再認識しました。企業側のメリットという点でも、私たちの活動を応援することにより地域に貢献できるだけでなく、宣伝効果にもつながると確認でき、自信をもって活動をアピールできるようになったように思います。

団体の取り組みを整理した後、企業訪問の際に使う営業資料にも反映させました。活動説明の改善だけでなく、資料では具体的な数字を使って説明するなどのテクニカルなポイントも教えていただき、より伝わりやすい資料になりました。

—— ロールプレイにも取り組んだということでしたが、どのように実施したか教えていただけますか。



丸茂 企業の担当者役と団体役に分かれて、活動をアピールする練習をしました。さらに、これまでは一方的に活動を説明するだけということが多かったのですが、さまざまな質問に対応するための質問集づくりにも取り組みました。これにより、会話の延長のような形でコミュニケーションをとりながら説明を進める練習になりましたし、どんな質問にも対応できるという自信にもつながりました。

企業への訪問を強化し 広報活動にも変化

—— 専門家として伴走するなかで、団体の変化はありましたか。

御手洗 もともと持っていた強みをうまくアピールできるようになったことで、パワーアップしたように思います。筋トレをして筋肉量がすごく増えたようなイメージですね。

丸茂 御手洗さんにさまざまなアドバイスをいただいたことで、ファンドレイズについて取り組むべきことがクリアになり、不安が解消しました。今後は長期的な事業計画の作成にも取り組む予定です。

また、フードドライブなどの広報活動でも、誰にどんなことを伝えるためのものかを考えて取り組むことができるようになり、根拠を持ってアクションができるようになりました。

今回の専門家派遣で得た学びをもとにさっそく企業訪問を強化しています。そのうちの一つでは、これまで年間10万円寄付していただいたところ、20万円に増えたという成果もありました。来年度はよりファンドレイズに取り組み、活動に共感していただける支援者を増やしていきたいです。

NPO 法人 フードバンクネット西埼玉 団体概要

所在地	埼玉県所沢市	スタッフ数	有給4名 ボランティア10名	2021年度実績
代表者名	代表理事 丸茂 真依子	活動日数	週5日	取り扱い量 約20トン
設立年	2017年			食料提供者 企業約50社
https://fbnws.gicz.tokyo				食料提供先 約30団体／約120世帯

継続した活動のため 助成金申請のアドバイス

NPO法人 フードバンク京都

京都市内を中心に福祉施設・団体、こども食堂などへの支援のほか、行政や社会福祉協議会などを通して緊急支援も取り組んでいます。寄付された食料だけでなく、無償貸出の農地でスタッフが野菜の生産を行い支援に利用しています。

話し手 河本 恭子 氏

専門家派遣 9回 11時間



所在地	京都府京都市	2021 年度実績	
代表者名	理事長 高島 由美	取り扱い量	25 トン
設立年	2015年	食料提供者	企業 約 50 社
スタッフ数	ボランティア約60名	食料提供先	約 50 団体／約 1,300 世帯
活動日数	週6日		
URL	https://www.foodbankkyoto.com		

直面していた課題

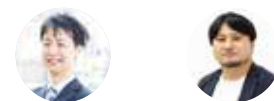
高まる支援ニーズに 応えるための資金獲得

フードバンクの認知度が高まり、2022年度は1日平均1件以上の支援要請があります。その一方で、事業に対しての継続的な助成金はなく、食料の調達や配達準備、配達まで全てボランティアで行っています。

事業が拡大するに従い、ボランティアの負担が大きくなっています。専従者を雇用する必要性を強く感じているものの、その資金調達の目処は立っていません。



派遣された専門家



望月 健次 氏 鈴木和樹 氏
認定NPO法人フードバンクふじのくに

コロナ禍以降、緊急支援のニーズが拡大し、特に個別支援の業務量が増大しています。現在は、ほかに仕事を持つ理事・監事とボランティアで活動しているとのこと。

団体としては専従の有給職員が必要と考えていますが、そのためには、定期的な財源の確保が重要です。

さまざまな対応策が考えられる中、まずは団体の状況を把握しつつ優先順位を定めて助言を行うことにしました。優先課題は財源確保と考え、助成金申請を目標に、団体の現状・実績・目的などを整理しながら支援を実施しました。

どんな変化が起きた？

助成金申請を通じて 価値や課題を整理

必要な財源を、事務局人件費10万円／月、家賃9万円／月と具体化し、直近の助成金の申請に向け細やかな助言や添削を受けることができました。また、安定的な寄贈を得るため、全国フードバンク推進協会への加盟希望を専門家へ伝えました。加盟条件となる倉庫管理や各種書式の整備について、現地を確認しながら一緒に対策を検討してもらうなど、中期的な目標設定にも役立ちました。

残念ながら助成金は不採択でしたが、別の助成金の情報提供を受け申請しました。助成金申請を通して活動の価値や課題を文書で伝えることを学んだことで、今後の申請や寄付の呼びかけにも役立つと考えています。

寄付への動線づくりで 継続した支援へ

認定NPO法人 フードバンク渋谷

母体はプロテスタントキリスト教会。教会を訪れる困窮者を支援するため設立されました。現在は渋谷区近隣の困窮世帯の食料提供のほか、行政や支援団体と連携しながら支援ネットワークづくりにも取り組んでいます。

話し手 久保田 寿江 氏

専門家派遣 5回 6時間



所在地	東京都渋谷区	2021 年度実績	
代表者名	代表 久保田 文吾	取り扱い量	5 トン
設立年	2016年	食料提供者	企業 約 30 社
スタッフ数	ボランティア3名	食料提供先	約 3 団体／約 560 世帯
活動日数	週3日		
URL	https://foodbank-shibuya.org		

直面していた課題

事業規模の拡大に伴う 財源の確保

渋谷区内にも様々な困難を抱える世帯がある中、さまざまな機関と連携しながら支援ネットワークを広げ、地域に根ざした活動を続けています。

コロナ禍以降、助成金や寄付金を中心に事業規模が拡大。2021年に認定NPO法人となり、2022年には渋谷区と連携したクラウドファンディングを実施しました。事業の拡大に伴い必要な資金も増え、財源の確保に不安を抱えています。



派遣された専門家



久保匠 氏
ソーシャルセクター
パートナー・すくらむ

既に自己努力で活動の積み上げをされているため、今ある成果をつなげ、支援が有機的に発展していくような仕組みの構築を目標にしました。

例えば、食料提供やボランティアなどで支援を受けた企業に対し、企業寄付など資金で支援してもらうための仕組みづくりを提案。また、クラウドファンディングでの寄付者が継続的な支援者となることを意識し、会員制度やマンスリーサポーターの設計も行いました。

渋谷区にはSDG sに取り組む大企業やベンチャー企業なども多く、地域性を活かした制度設計を意識しました。

どんな変化が起きた？

関わりのある企業へ 支援依頼レターを作成

これまで、会員制度などの仕組みづくりは検討が必要であるとは思いつつ、時間がかかる取り組みのためなかなか進められていませんでしたが、専門家のアドバイスをいただきながら先を見据えた戦略を立てることができました。

第一歩の取り組みとして、関係のある企業を洗い出し、リストを作成。そして、寄付や企業会員での支援を呼びかける支援レターを送付することになりました。

作成した支援レターへのフィードバックをいただき、また、送付後の効果検証の方法についても丁寧に教えていただいたことで、これから取り組むべきことが明確になりました。

寄付型自動販売機の設置で 継続した寄付を確保

NPO法人 フードバンクしまね あったか元気便

島根県松江市内の小・中学校に通う子どもをもつ世帯（就学援助世帯）に、給食のない長期休校期間の年4回（2022年は臨時含め6回）食品を提供しています。就学援助世帯への支援が中心で、松江市内の学校を通じて告知しています。

話し手 大木 理之氏

専門家派遣 2回 3.5時間

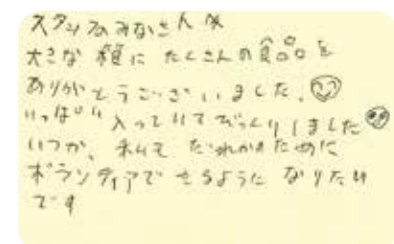


所在地	島根県松江市	2021 年度実績	
代表者名	代表 春日 邦宣	取り扱い量	15 トン
設立年	2019年	食料提供者	企業 約 69 社
スタッフ数	有給7 名	食料提供先	約 1,405 世帯
活動日数	週5日		
URL	https://foodbankshimane.com/		

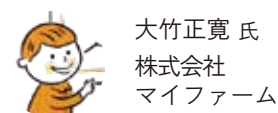
直面していた課題

使途に制限のない 寄付金の獲得を

大きな課題として資金集めがあり、クラウドファンディングや募金箱設置なども実施していますが、思うように集まらず頭打ちの現状です。助成金情報があっても申請作業が煩雑で単年度のものが大半。さらに使途にもさまざまな制限があるため、申請を諦めることも多かったです。そのため、使途に制限のない、法人や個人からの寄付金を増やすことが目下の課題であり、目標でもあります。



派遣された専門家



大竹正寛 氏
株式会社
マイファーム

設立が2019年でNPO法人化は2022年8月と新しいフードバンクですが、活動理念が明確でホームページの情報も充実しています。大きなポテンシャルを感じました。2021年は松江市内3分の1にあたる11の小・中学校に通う子どもとその親への支援が、翌年には17校を対象にした支援にまで拡大しています。

しかし目標である市内全小・中学校に支援を広げるには今の3倍の財源確保が必要になるとのこと。そこで団体の状況を考慮し、作業負担の少ない“寄付型自動販売機”の設置を提案。日本コカ・コーラの担当者へつなぎました。

どんな変化が起きた？

2 カ月で7 台の 寄付型自動販売機を設置

寄付型自動販売機の提案を受け、寄付の取り組みの一つとしてこのような選択肢があったのかと驚きでした。設置先との交渉は必要ですが、一度設置が決まれば、縛りのない寄付金が継続的に入り、課題である財源の安定化が期待できます。

このたび日本コカ・コーラを紹介いただいてから約2カ月で7台の設置が確定しました。予想を遥かに超えるペースでの設置に驚いています。設置された自動販売機は広告としての役割もあるため、興味を持った企業などが新規設置をするという相乗効果も期待できます。

団体の目標でもある市内全小・中学校への支援が一歩近づいたと感じています。

地域連携の強化に向け 他地域の事例に学ぶ

フードバンクそお （財部町身体障害者協議会）

母体は、障害をもつ人への支援を目的とする財部町身体障害者協議会。食料提供先として、障害者などを含む生活困窮者を支援する“生活相談支援センター”や、こども食堂、母子支援団体などとも連携し支援しています。

話し手 川添 義一 氏

専門家派遣 1回 2時間



所在地	鹿児島県曽於市	2021 年度実績	
代表者名	会長 安楽 稔	取り扱い量	20 トン
設立年	2018年	（うち他のフードバンクからの提供量 2 トン）	
スタッフ数	ボランティア35名	食料提供者	企業 約 40 社
活動日数	週2日	食料提供先	約 35 団体／約 1,000 世帯
URL	https://fb-soo.gicz.tokyo		
			こども食堂 8 カ所

直面していた課題

食料取り扱い量増加や 地域との連携を

地域のひとり親世帯は10年で約20%増加、年金のみで生活する世帯も多く、貧困家庭が多い地域です。

需要の増加に対応するため、食料取り扱い量をさらに増やしていく必要があると考えています。食料提供ネットワークや行政、地元企業などとの連携を広げるため、他地域で実施されている取り組みなども参考にしながら、自団体でできることを検討したいと思っていました。



派遣された専門家



太田 茂雄 氏
フードバンク滋賀

地域に根差した活動を展開していて、官民の連携、特に行政との連携が上手く取れていることが同団体の最大の特徴だと思います。実際に、行政の支所の一角を食料保管場所として無償解放してもらっているほか、地域のこども食堂まで展開しています。

食料取り扱い量の増加に向けて、他の地域での活動事例を紹介し、どう取り入れていけるかを話し合いました。地元企業やロータリークラブなどの団体だけでなく、個人への呼びかけをアドバイス。また、活動資金の増加に向けた情報共有を行いました。

どんな変化が起きた？

他地域の事例共有で 連携先の開拓に前進

他地域のフードバンク活動事例や取り組みを知ること、取引先数や食料取り扱い量をどう増やしていくか検討することができました。

一見フードバンクとは直接関係のない、病院や一般企業なども協力の可能性があることが分かりました。備蓄食料の入れ替え時に発生する廃棄食料の提供や、ボランティア募集やフードドライブの実施など広報で協力してもらえる場合もあり、地域内の資源を最大限活用していく可能性も見い出せました。

専門家派遣後、つながりのある地域のこども食堂や学習支援事業とのコミュニケーションが深まり、より地域との連携が進んでいると感じています。